## 「人生は一度きり、やりたいことをやる」

亀谷　潤（42 歳）　新規参入、移住就農
（今治市）

1　就農の動機・理由

前職では海外の資源プラント設計や試運転に携わるなかで、深刻な環境汚染を目の当たりにし、資本主義社会の在り方に疑問を抱くようになりました。そこで「自然と共に生きる道」を模索し、令和３年に大三島町へ移住。有機農家のもとで研修を受け、令和５年に就農しました。

2　農業経営の概要

○経営の展開

| 項目 | 就農時の経営（令和４年 ） | 現在の経営（令和５年） | 将来の経営（令和 10 年） |
|---|---|---|---|
| 労働力 | 男１人（本人）<br>女１人（妻） | 男１人（本人）<br>女１人（妻） | 男１人（本人）<br>女１人（妻） |
| 経営耕地 | 樹園地　30ａ | 樹園地　30ａ | 樹園地　60ａ |
| 経営内容 | 養蜂　30 群<br>有機ﾚﾓﾝ　30ａ | 養蜂　30 群<br>有機ﾚﾓﾝ　30ａ<br>狩猟 | 養蜂　50 群<br>有機ﾚﾓﾝ　60ａ<br>狩猟<br>農家民宿 |

○農業用施設

作業場　１棟

○主要農業機械

管理機　１台
運搬車　２台
プレハブ冷蔵庫　１台
エンジンポンプ　１台

3　あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地　熊本生まれ、横浜から移住
職歴　日揮ホールディングス(株)
就農研修歴
今治市上浦町の有機農家のもとで果樹と野菜栽培を学ぶ
（令和３年４月１日
～令和５年３月 31 日）
就農年月　令和５年４月

(2) 就農時の思い

人間が主体ではなく、まず自然ありき。その恵みや営みを、ほんの少しお裾分けをいただく。そんな感謝の気持ちを常に忘れずに生きていきたいと思い、農業の道を選びました。毎日土に触れられる暮らしは本当に最高！自然の中で仕事ができるのも最高！と思っていました。今でも思っています。

4　就農時の取り組み

(1) 技術の習得

養蜂も果樹も野菜も、まずは自分でやってみて、疑問点が生まれたら調べ、聞き、理解し、改善する。そのサイクルを繰り返すことで技術を身につけています。

(2) 資金の準備

経営発展支援事業や経営開始資金を活用しました。養蜂や有機栽培はいわゆる大型機械が不要なため、初期投資を抑えられたのは大きな利点でした。

(3) 農地・住宅の確保

島を原付バイクで巡りながら農地を探し、耕作放棄地を見つけては所有者を探し出し、使わせてもらえないかと依頼を続けました。持ち主の方々はすでに島を離れていることが多く、連絡を取るのに苦労しましたが、話が通じるとみなさん快く貸してくださり、今でも応援していただいています。

住宅は、雨漏りのない古民家を購入し、自分たちで少しずつ DIY してリフォームしました。今では居心地の良い自慢の我が家です。

(4) その他苦労したこと

慣れない開墾作業です。20 年、30 年放棄された畑にはもう木が生えて森に戻っていますので、初めて使うチェーンソーを片手に四苦八苦しました。でも開墾を終えた時の達成感は最高です。田舎生活の必需品である薪が沢山手に入るのも重要ですね。

5　農業経営の特徴

現在は養蜂 30 群と有機レモン 30a の栽培を軸に、狩猟を加えた“三本柱”で生計を立てています。さらに古民家の DIY や荒地の開墾、キノコ栽培など、興味のあることには何でも挑戦中。そうした活動を通じて仲間が増え、田舎暮らしの毎日はとても賑やかです。

6　これからの夢

養蜂・有機農業・狩猟が体験できる宿を開きたくて、島内の空き家を購入し DIY で改修を進めています。島の魅力や農業を身近に感じてもらえる機会をつくり、移住・就農の仲間を増やしたいです。ぜひ泊まりに来てください。

7　成功したキーポイント

自分一人の力でやるのではなく、周りの仲間と助け合いながら一緒に地域を盛り上げる。楽しむつもりでやるのが重要だと思います。一人ではつまらない単調な農作業でもみんなでやればなぜか最高に楽しいものです。

8　就農を目指す方へのアドバイス

田舎は生活費が安く、自分の時間を自由に使えます。収入源を一つに絞らず複数の仕事を小さく始め、バランスを取りながら進めるのが成功の秘訣だと思います。気負わずに柔軟に挑戦し、自分らしい暮らしを築いてください。

○　指導機関からのひとこと

Ｉターン就農後、地域の農業者や指導員等とコミュニケーションをとったり、青年農業者組織活動に積極的に参加し、技術や情報を収集するなど、経営に生かしている姿は、これから農業を目指す新規就農者の模範となっています。今後の活躍も期待しています。

執筆機関

東予地方局農林水産振興部今治支局地域農業育成室
しまなみ農業指導班
電話番号　0897-72-2325

養蜂の作業